

科目名	成人聴覚障害				授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	後期	必修・選択	必修	
〔授業の目的・ねらい〕									
聴覚系、聴覚障害者等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類、検査方法や技術、臨床的意義などを理解し、聴覚障害者に対するリハビリテーションについての理解を深める。									
〔授業全体の内容の概要〕									
聴覚系、聴覚障害者等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類、検査方法や技術、臨床的意義を学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
聴覚障害の特徴を理解し、典型的な症例について、リハビリテーションに必要な評価法、指導法を選択し、実施し、結果を評価できるようになる。									
回数	講義内容								
1	ニーズの違いと指導（成人期）								
2	ニーズの違いと指導（中年期）								
3	ニーズの違いと指導（老年期）								
4	聴覚的手段（補聴器）								
5	聴覚的手段（人工内耳）								
6	その他の聴覚的手段								
7	視覚的手段（文字）								
8	視覚的手段（手話）								
9	視覚的手段（指文字、読話）								
10	触覚的手段								
11	聴覚活用（補聴器、人工内耳）								
12	聴覚活用に影響を及ぼす要因								
13	聴取レベルと訓練内容								
14	視覚活用（読話）								
15	コミュニケーション方略								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名			出版社	
なし・配布プリント									
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									